

サポート事業」や「産後ケア事業」は区市町村が実施主体となって行われるものですが、東京都においてはその展開が区市町村によって大きく異なる現状があります。例えば、助産所で産後ケアを利用しようとした場合、居住する区によって負担額が大きく異なり支援を受けることを躊躇するといったことや、区市町村によって利用できるサービス内容が異なるといったことがあります。※出産を経験する女性が、すべての区市町村において、産前産後のケアや支援を十分に利用できるよう、区市町村における事業の実施を調整する等、東京都としてのご支援をお願いいたします。

また、助産師は、女性や子ども、家族にとって最も近い場所で、生活に密着し継続的なケアを提供することができる存在です。産前産後のケアや支援に関する事業においては、地域で母子を支援する助産師のあらゆる段階における参画が推進されるよう、区市町村に周知をお願いいたします。

要望活動の中で、要望の理由を明確に示すことは実際の母子の状況をお伝えすることにもなり有意義であると同時に、その際にはできるだけ根拠に即して伝えることが重要だと考えています。政策提言委員会では、来年度に向けて、「産後ケア」「災害」「嘱託医の確保等」「命の教育」「助産師教育指導講習会（都委託）」「地区分会活動」といったテーマを掲げそれぞれの担当が根拠や理由を明確にしつつ要望内容を検討しているところです。根拠や理由を明確にするプロセスにおいては、会員のみならずの実地に即した知見を集約してまとめることが必要となります。関係各所に母子や家族、助産師の状況を分かりやすくお伝えしていくためにも引き続きご協力のほど、是非よろしくお願いたします。

また、今年度の要望活動の中では、東京都助産師会が小池百合子東京都知事に面会する機会を持つことができました。



小池百合子都知事との面会



助産師による個別相談。妊婦さんに寄り添って話を聞きます



毎年恒例の「お産劇」は笑いあり涙あり

た。知事は面会の中で、「大きな節目となる出産。産後うつといった問題が起こらないように支援が必要」「児童虐待などがある中で子どもやその家族を取り巻く状況には支援が必要」とおっしゃっていらっしゃいました。政策提言委員会は今後も現場に即した根拠をもとに、母子や家族を支援する助産師がより力を発揮できるような政策や制度を考え、活動してまいります。

「とうきょうマタニティフェスタ2018 気負わない☆ Take it easy」開催

助産所部会長
渡辺 愛

今年で4年目のマタニティフェスタ。11月3日(土) 11月3日(土) いいお産の日に、妊婦さん75人、産後ママ92人、夫114人、子供118人、その他21人で計 420人の方がご参加下さいました。地区別では文京区75人、豊島区、江東区9人、世田谷区8人、他6人以下あちこちからご来場いただき、今年も昨年同様に大盛況でした!

このイベントの主な企画・運営は3部会持ち回りで担当します。今年も助産所部会が担当しました。4年前に作成したチラシは3年間同じスタイルでしたので、若手の委員にリニューアルをお願いし、近隣の産婦人科医療機関50カ所の外来師長さんに宛ててチラシを送りました。お産劇は、今年も日頃から両親学級で上演しているという劇団八千代(八千代助産院の助産師たち)にお願いしました。新たな企画として、抱っこ紐の正しい使い方を教えるベビーウェアリングコンシェルジュの人たちを招いた講座を開催しました。

助産所部会委員はSNSを活用しての宣伝に取り組み、昨年と比べなんと30人も妊婦さんの参加が増えたのが今年の大きな成果だと思います。

もっと妊婦さんの参加が増えるにはどうしたらよいか?お手伝いくださった理事さん、3部会の皆様との反省会では白熱した議論が繰り広げられ(ちょっとオーバー?)、目指せ100人妊婦!を来年の目標にしたいと思います。

〈お産劇〉施設勤務部会 相沢澄子

観客約40人と満員御礼で大好評でした。お産劇の第1部は施設勤務部会の助産師が病院での出産場面を、第2部は八千代助産院おとわバスの助産師が助産院での出産場面という設定でした。産婦役の陣痛に耐える自然の姿、それをサポートする助産師、そして心配そうに分娩を見守る産婦の家族の演技は本番さながらで観客の目を惹いていました。元気な産声とともに会場から拍手喝采が起り、まさしく「リアルなお産」でした。助産師から、女優に転職もできそうです。

〈ベビーウェアリング〉助産所部会 月野真紀

初めての試みとして助産所部会では、ベビーウェアリングコンシェルジュである、助産師5人をお招きし、ベビーウェアリ

ング講座を開催しました。赤ちゃんが安心し、父母の疲れのない抱っこ方法や寝かせるコツを、参加者も人形を抱っこしながら学びました。災害時の避難方法として、トートバックに赤ちゃんを乗せて避難する方法も紹介されました。そしてエルゴやスリング、兵児帯などの使い方を紹介し個々に体験。ご夫婦での参加が多かったので、各々に合った紐の使い方を見つけられ、参加した方からはゆっくりじっくり体験できてよかった、と好評でした。

〈QBケア〉保健指導部会 板橋知子

おとわバスの一室をお借りして細々とQBケアが始まりました。最初は事前予約が少なく、やや残念間を抱きながらのスタート。でも20分の展開の中で、緊張の面持ちのママやパパ達が入ってきたはずなのに帰りには「来てよかった」「もう少し話して帰りたい!」優しい顔でお帰りになる。そんな様子に私たちは充実感を抱いた。終わってみれば、今年も13ケースの来所。受付での一声が午後からのこの盛況に結びついたのでろう。この機会に地域での要フォローケースに出会った。ママにとっても我々にとっても、どこかで、誰かが、それも専門家があなたのそばにいるというメッセージを送ることができる場所に居られることが両者の救い、安心につながるのだと思う。この小さな働きが育児を支える場面なのだと確信した。

〈妊婦相談コーナー〉助産所部会 坂田やい子

毎年行っている妊婦相談コーナー、今年も例年になく多数の方が来訪されました。「お産劇」を観て自分の出産とオーバーラップしてしまい気分が悪くなった妊婦さんがいらっしやり、肘を曲げて脇を開くように体操を促し、固くなっていた肋骨を緩めてもらおうと「気分が良くなった」と顔色も良くなり笑顔で帰られました。その他「心音が聞きたい」「胎動が少ない」「恥骨痛」等を訴え来訪される方々に心音をドップラーで聞いたり、お腹に手を当てながら赤ちゃんに話しかけ一緒に胎動を感じたり、骨盤調整を行い自宅でできる体操を助言したりしました。ご主人にも妊婦体験や胎動体験、授乳体験してもらい、ご夫婦でできる事を考えてもらえるきっかけになったと感じました。

マタニティフェスタに参加して 広報委員 中 友里恵

今回、初めてとうきょうマタニティフェスタに参加しました。東京都助産師会館のフロアをすべて使用し、プレママや産後のママと赤ちゃん、そして助産師が楽しめる空間になっていました。私は主に、東京都助産師会が主催するイベントに取材させていただきました。

まずベビーウェアリング講座では抱っこの仕方を人形を使っ

て一緒に練習します。人形とはいえ、慎重に首をささえながら「こんな感じかな」「こわーい!」といった笑顔と冷や汗?が混ざった楽しい会話がきかれました。初めての体験に緊張しながらも、これから産まれてくる赤ちゃんにわくわくしている様子でした。

スリングやさらし一枚布を使用したおんぶや抱っこの方法も体験します。赤ちゃんが心地良いだけでなく、ママやパパも快適